

対象年度	平成31年度							総合計画実施計画策定及び行政評価シート	
事務事業名	配水管更新事業						予算事業名		
予算科目	会計	企業会計	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	水道法
			1	1	4		経常経費		
総合計画体系	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)						事業の区分	主要事業	
	2-5安全な水を安定供給できるまちづくり(上水道)								
	①安全で安定した水の供給						担当課係等	水道課	
2配水管更新による漏水及びにごり対策						工務係			
事業期間	継続 (平成 9年度～平成32年度)								
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】					【事業開始のきっかけや他市の状況など】				
管路の耐震性の向上を図るとともに赤水及び漏水の解消を図る。					赤水の苦情が市民から恒常的にあり、赤水発生の原因の一つである老朽化した石綿セメント管やその他老朽管を計画的に更新していく必要があるため。				
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】					【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】				
石綿セメント管やその他老朽管を耐震性のある配水ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管(GX・NS)等に更新する。					石綿セメント管 鋼管・鋳鉄管・ダクタイル鋳鉄管 水道用硬質塩化ビニル管				
					【事業をとりまく環境の変化】				
					赤水対策も要因の一つであるが、東日本大震災以降、耐震化をいち早く進める必要がある。				
【平成31年度 事業内容】			【平成32年度 事業内容】			【平成33年度 事業内容】			
石綿セメント管やその他老朽管を耐震性のある配水ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管(GX・NS)等に更新			石綿セメント管やその他老朽管を耐震性のある配水ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管(GX・NS)等に更新			石綿セメント管やその他老朽管を耐震性のある配水ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管(GX・NS)等に更新			

■事業費

		H29年度	H30年度			
財源内訳	国庫支出金	35,648	32,418			
	県支出金	0	0			
	地方債	140,000	132,000			
	その他	101,540	78,096			
	一般財源	0	0			
歳入計(千円)		277,188	242,514			
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	13 委託料	22,842	19,926			
	15 工事請負費	254,346	222,588			
歳出計(千円)(A)		277,188	242,514			
伸び率(%)			-12.5			
備考	総合計画 87ページ 予算書427ページ					

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		H29年度	H30年度	H31年度
活動指標	石綿セメント管等更新延長	m	目標	6,000	6,000	6,000
			実績	5,073		
			目標			
			実績			
成果指標	石綿セメント管残延長	m	目標	30,000	26,000	21,000
			実績	30,551		
			目標			
			実績			

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	赤水の苦情が恒常的にあり、赤水発生の原因の一つである老朽化した石綿セメント管やその他老朽管を計画的に更新し、耐震化も図る必要がある。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	行政以外には実施できない事業である。
	手段の妥当性	A 妥当である	現在の手法が一般的であり、特に問題はない。
効率性	コストの効率性 ・人員効率	B どちらとも言えない	石綿セメント管の布設替えにより地下漏水が減少し、有収率が年々向上しているが、工事費としては昨年、一昨年と労務費が上昇しコスト高となっている。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	広範囲に対して便益が提供されており、偏りは見られない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	石綿セメント管の布設替えにより地下漏水が減少し、有収率が年々向上しており耐震化も図られているが、進捗状況が思わしくない。
進捗度	事業の進捗	C 遅れている	当該年度施工分工事の設計業務委託発注を、施工前年度発注へ移行中であるため。

総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください

石綿セメント管については、水道事業創設時より布設された管種であり、地下漏水や赤水発生の一因で耐震性も低い。本事業を行うことにより有収率が向上し更には赤水発生も軽減できる。また最新の耐震管となることにより、配水管が長寿命化され長々期的なコスト削減にも繋がり危機管理面においても能力が向上することから、早急に更新事業を推進しなければならない。総事業費が膨大であることから、計画的に実施するためには財源の確保に努める必要がある。

対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか

工事の手法等を見直し経費削減に努める。
また石綿セメント管やその他老朽管の布設替については最優先事業でもあり、事業資金としての内部保留金を確保することが不可欠である。

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充）
 改善改革しながら継続
 現状のまま継続（改善・改革なし）
 統合・新規事業への展開
 縮小
 休止
 廃止・終了
 予定どおりの要求
 一部改善の上要求
 今回は見送り
 その他の処置

改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画）

日常的な赤水や漏水発生の原因となる老朽管がまだまだ多く残存しており、更新が計画どおりに進んでいない現状にある。このため、本事業を最優先事業に位置付け痛みが特に激しい石綿セメント管の更新を引き続き行うとともに新たに補助対象となる鋼管等の更新も実施していく。

2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充）
 改善改革しながら継続
 現状のまま継続（改善・改革なし）
 統合・新規事業への展開
 縮小
 休止
 廃止・終了
 予定どおりの要求
 一部改善の上要求
 今回は見送り
 その他の処置

企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）

補助金等を可能な限り活用し、財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。